

事業又は施策名【担当課】

③放課後児童クラブ事業【子育て支援課】

委員コメント

児童クラブ以外に同様の事業として学童保育および子ども教室があり、それらを管轄している事業と捉えられるので、事業内容に沿った事業名称にする。これら3つの事業を個別に実施するのではなく、一体型として実施することは、行政資源を有効に活用することができるので、国の縦割りを打ち破る事業として進めることが望まれる。そのためには、市民協働を積極的に進めて行くことが必要である。

待機児童の数を減らすということが大切であると思いますが、現状は保育士の確保の問題や児童クラブや学童保育所の場所の利便性の問題など、簡単な解決法はないようにも思われます。他部署との協働可能性を探ってみるということも大切なのかもしれません。また、受け入れの割合を成果指標とすることも大切だと思いますが、同時に放課後児童クラブ事業の質の確保という点からも、利用者の満足度、利用者と事業者との信頼関係なども視野に入れるということもよいかもしれません。

放課後児童クラブ事業については、育児による離職者を無くする為にも今後も拡充をお願いします。また、地区によっては、待機児童が発生しておりますので、最善の対応をお願いします。

一体化の推進にあたっては、既に実施されてます東小学校での利用者からの意見等を収集し、水平展開を図ってください。また、成果指標についても、利用者の満足度なども検討いただき、サービス向上に努めてください。

・まずは、待機者「0人」が達成できるようにハード面の施策の推進も必要であるが、これと同時に、この「箱モノ」に対応する施設従事者の数と質の確保も行う必要があると思う。このため、これに関する課題、目標も設定して対応することが必要と思う。

・施設利用者の声の把握、また分析、そしてそれをどう生かしている(いく)のか、つまり、「量」とともに「質」の把握、向上策がもっと見えるようにする必要があると思う。

・設置場所についても、(学校内設置のものは除くとして)地域全体からの位置、また利用者の多い位置に近いかなど配慮も必要ではないか。

・市直営の施設について、民間ノウハウがしっかりしたところへの委託化などの検討、も今後の課題また展開として加える必要があるのではないかと思う。

放課後児童クラブと学童保育所は若い子育て世代にとってなくてはならない事業である。

定員は1.65㎡/1人当たりで決まる。現状、児童クラブは定員340名入所者321名待機者58名(h28.4現在)。施設は南、下山、長久手、市が洞、東、西の6か所である。学童保育は定員290名、入所者266名、待機者はなし、施設は長久手、長南、北、市が洞の4か所である。

一体型新規施設は、南h30、北h31を予定している。

課題は2つ。一つは基本待機者ゼロを目指す本事業にとって、既設の拡張工事は困難。当面の対応は空き教室の利用を掲げるが、児童増加で足りない教室、即効性は期待できない。

2つにイオンやイケアで雇用拡大する裏で、指導員も子育て主婦が殆ど、6時には帰宅し主婦業が待っている。必然的に不足がちになる。

上記課題は何れもハードソフト両面で難題である。

新規施設では児童増加の判断が数年で誤らないよう慎重な予想を期待したい。

男女共同参画を叫ばれ昨今、住みよいまち首位の当市には、更に活性化する世代交代の好循環づくりに期待したい。